

## 県内景気は外需がけん引し、 緩やかに回復

### 神奈川県内景気

- 輸出は、財輸出が持ち直し基調、インバウンド消費も拡大基調を維持。
- 9月の県内製造業の生産活動は上昇したものの、基調としては横ばい圏内で推移。
- 9月の実質賃金（家計の購買力）は前年割れが続く。ただ、名目所定内給与は引き続き上昇基調。
- 10月の個人消費について、財消費の動きをみると、百貨店・スーパーの販売額が弱含む中、乗用車販売が持ち直した。他方、サービス消費は横ばい圏内で推移した。

本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取り扱いいただきますようお願いいたします。



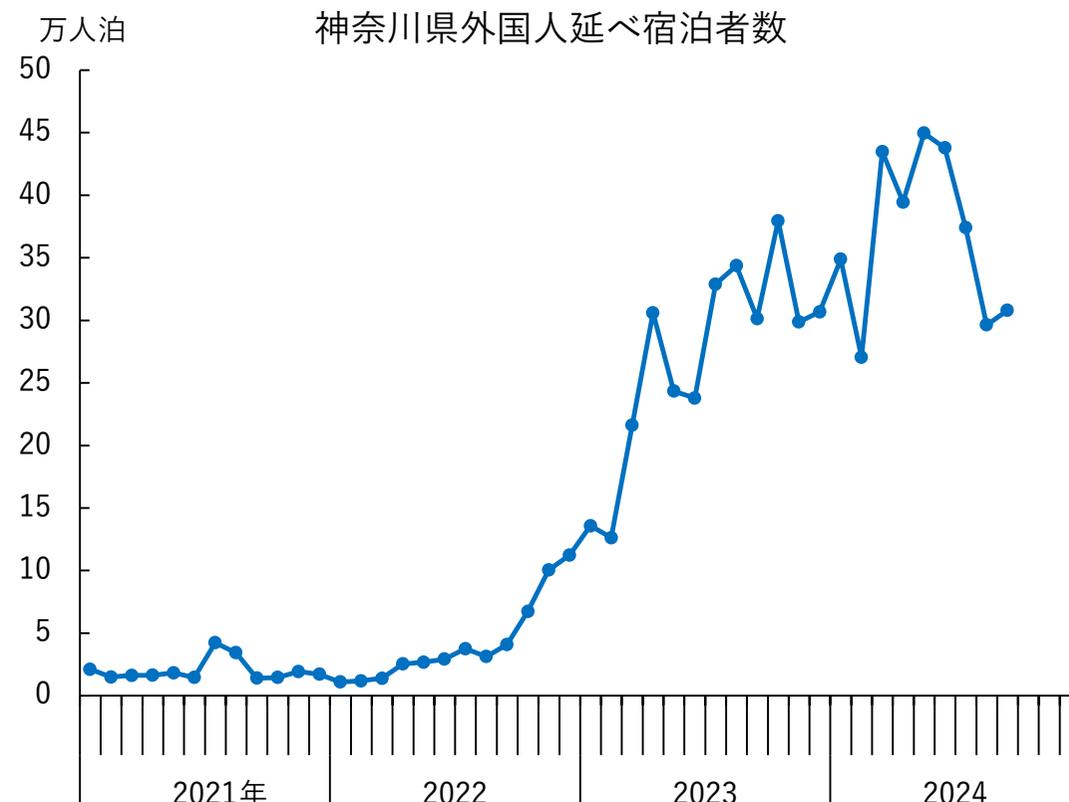
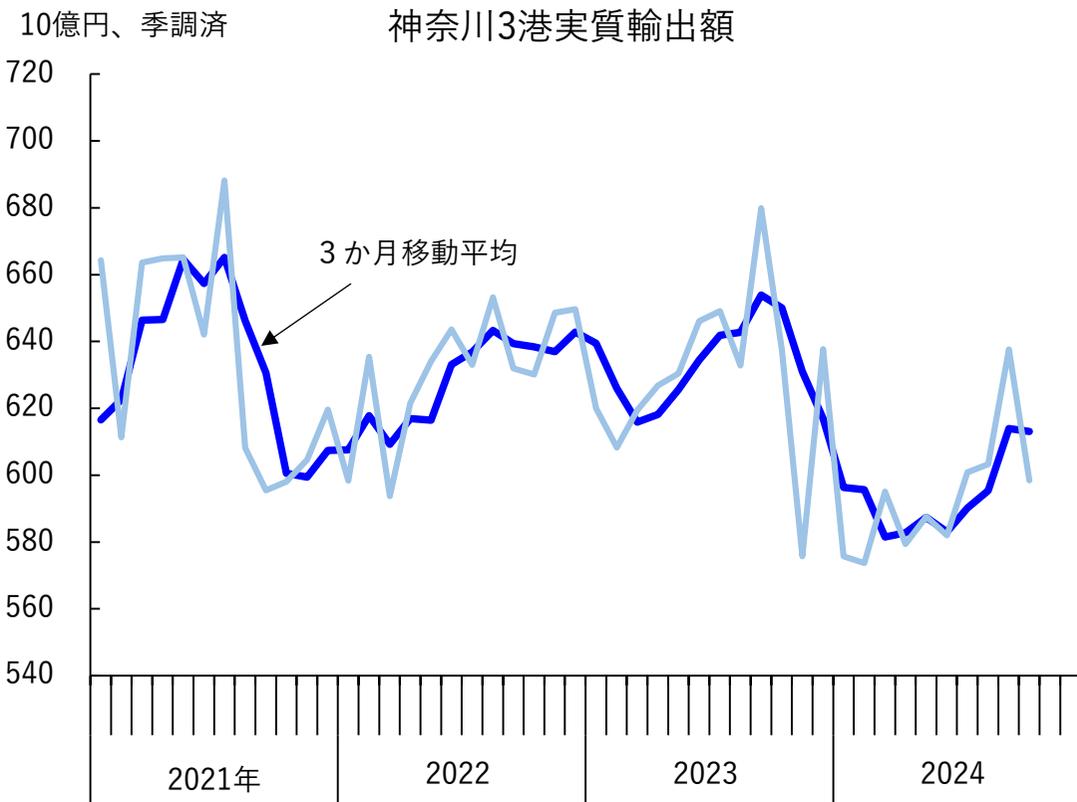
横浜銀行グループ

浜銀総合研究所



- 財の輸出は基調としては持ち直している。神奈川3港（横浜港、川崎港、横須賀港）の10月の実質（≒数量ベース）輸出は4か月ぶりに減少した。財別（3か月移動平均）では、輸送用機器が上昇した。ただ、いったんは持ち直したかにみえた一般機械の回復は足踏みした。
- インバウンド消費は拡大基調が続いている。9月の外国人延べ宿泊者数は、コロナ禍前の2019年同月比+16.1%となった（※）。ただ、年前半の上昇ペースと比較すると、やや鈍化傾向にある。

※2024年9月の値は推計誤差が大きいことに注意が必要。



注:季節調整は当社で施した。

出所:財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より浜銀総研作成

注:2024年1、2、5、7、8、9月の値は誤差が大きいことに注意が必要。

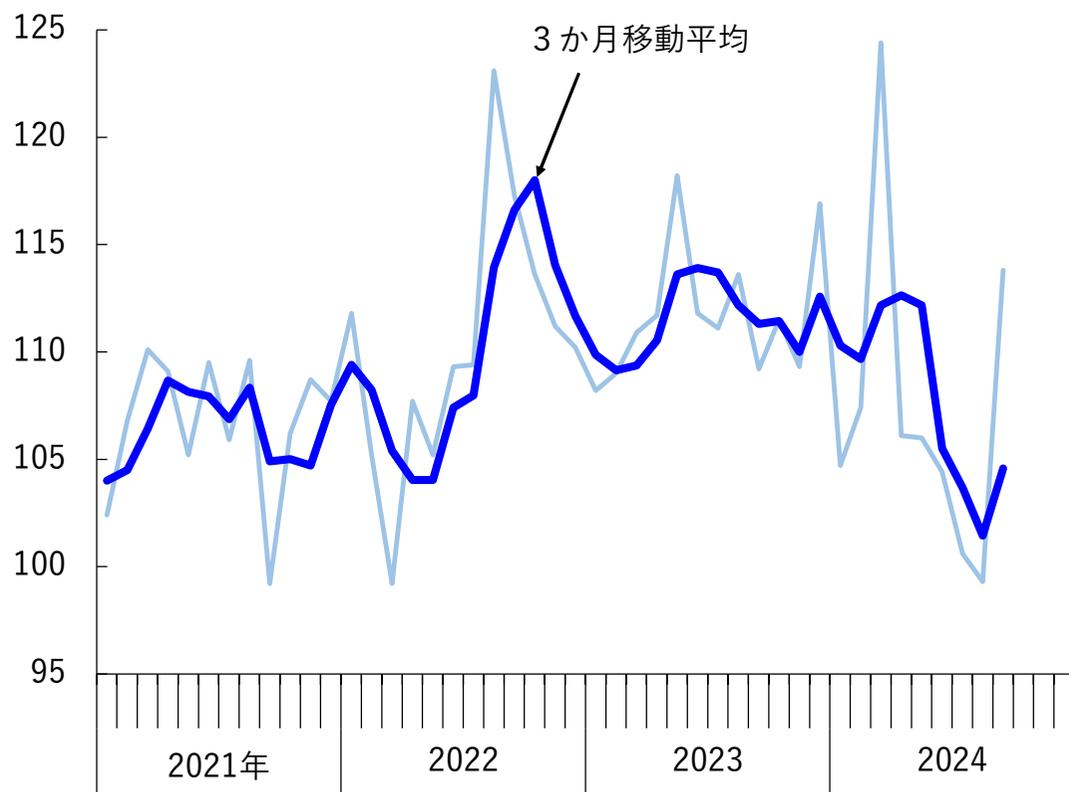
出所:観光庁「宿泊旅行統計」



- 9月の工業生産指数は前月比+14.6%と、6か月ぶりに大きく上昇した。
- 業種別にみると、生産用機械（前月比+99.1%）が大幅に上昇した。同業種の対前月比寄与度は+8.14%ポイントと、指数全体を押し上げている。同業種は単月の振れが大きく、ならしてみれば上昇基調には至っていないとみられ、8月に続き、生産指数は横ばい圏内で推移していると判断する。
- 他の主要業種では、輸送機械（前月比+0.3%）、化学（同+11.1%）が上昇した。他方、食料品・飲料は前月から横ばいであった。

製造工業生産指数（神奈川県）

2020年=100、季調済

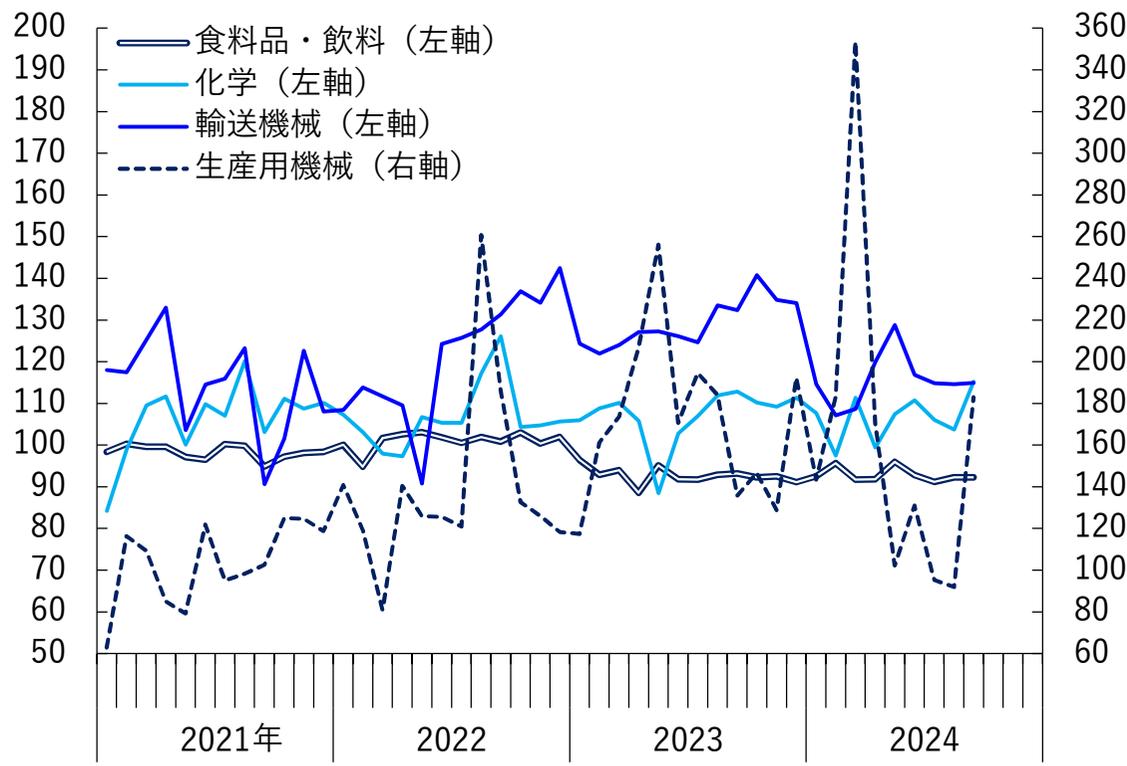


出所：神奈川県「工業生産指数」より浜銀総研作成

主要4業種の生産指数（神奈川県）

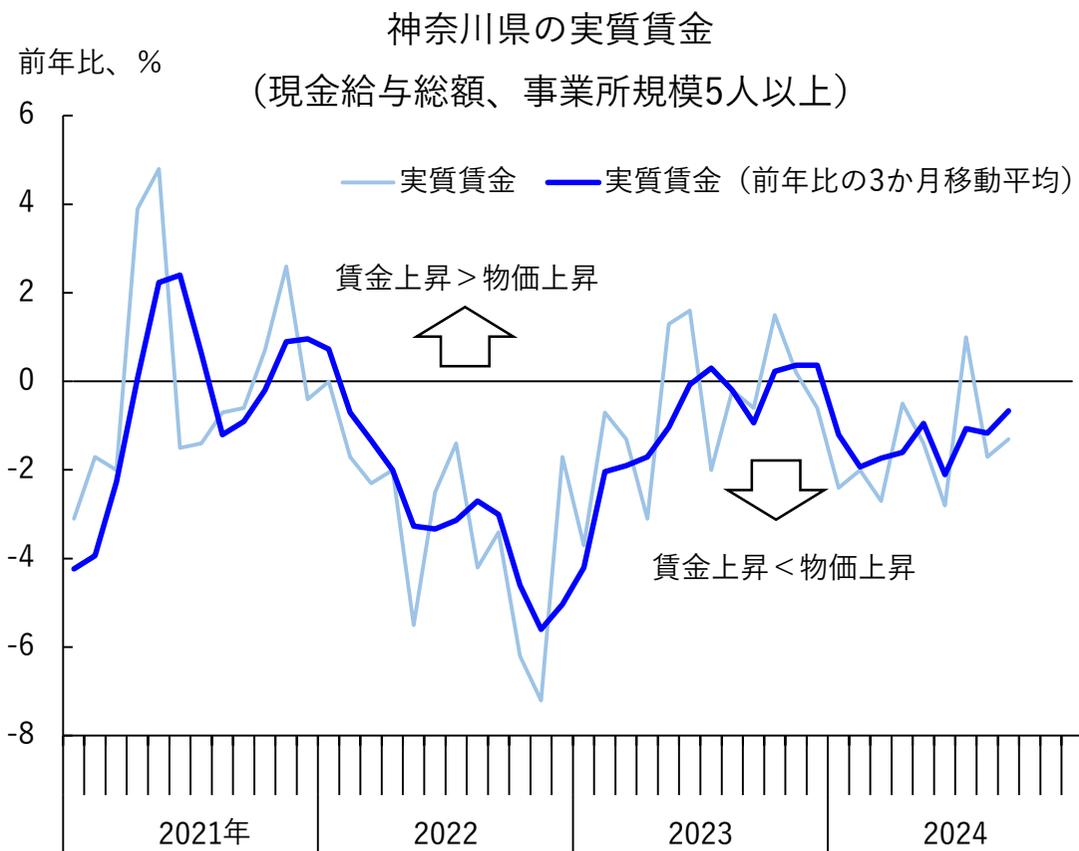
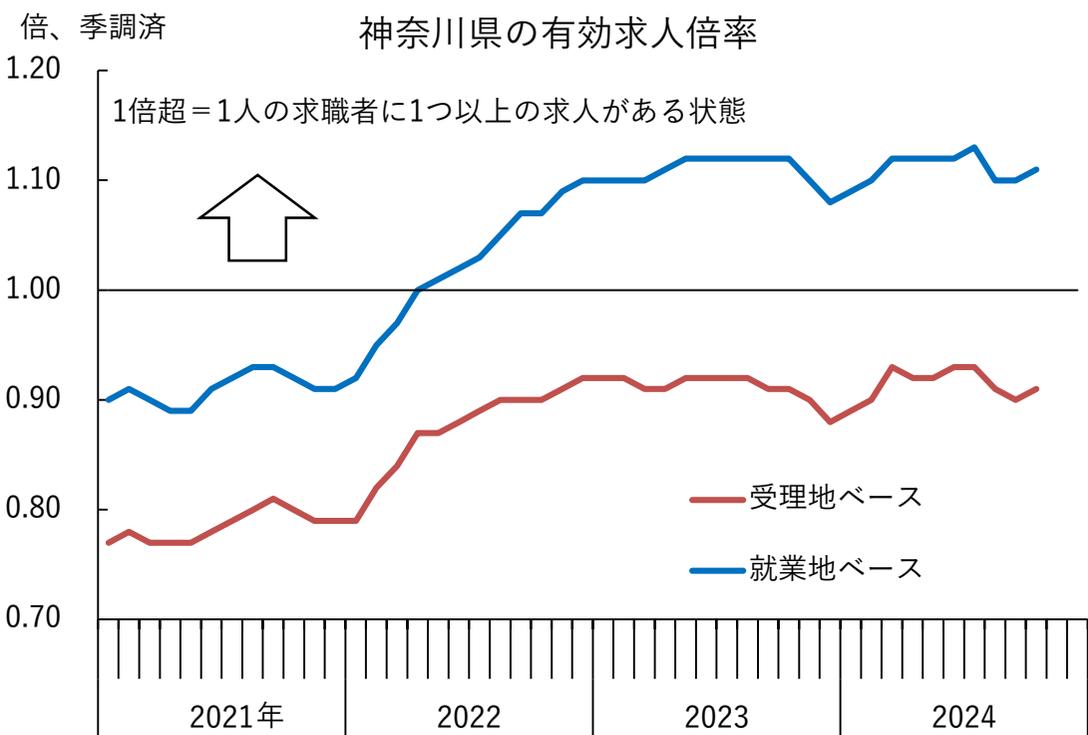
2020年=100、季調済

2020年=100、季調済



出所：神奈川県「工業生産指数」

- 10月も県内雇用情勢は横ばい圏内の動き。10月の神奈川県の有効求人倍率は、受理地ベースで0.91倍となり、前月比0.01ポイント上昇した。県内雇用情勢の実態をより反映していると考えられる就業地ベースの有効求人倍率も1.11倍と、前月比0.01ポイント上昇した。
- 家計の購買力を示す実質賃金（事業所規模5人以上）は9月に前年比-1.3%と前年割れが続いた。ただ、3か月移動平均でみると、前年比のマイナス幅はやや縮小傾向にある。また、名目所定内給与（給与明細上の基本給に相当）をみると、事業所規模5人以上で同+1.7%、事業所規模30人以上では同+4.9%の大幅上昇となった。名目ベースでの賃金の上昇基調は変わっていない。



注：受理地ベースは、神奈川県内で受理した求人票をベースとした集計。就業地ベースは、実際に神奈川県内に就業する求人をベースとした集計。

出所：厚生労働省「一般職業紹介状況」、神奈川労働局「労働市場速報」

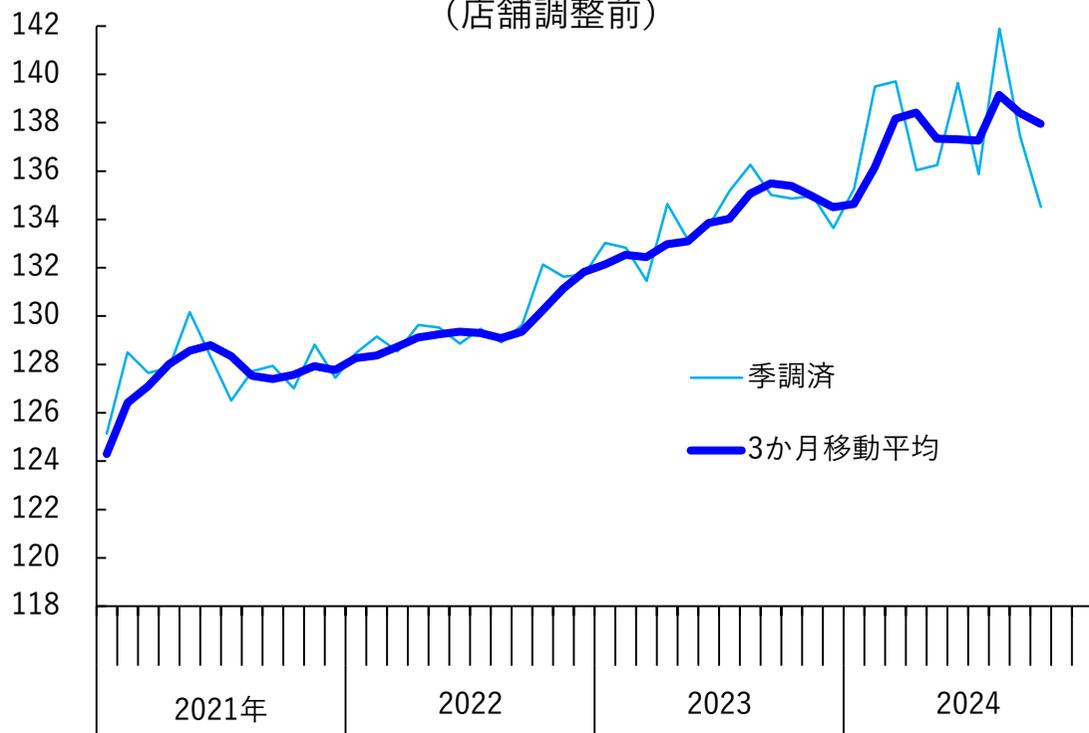
出所：神奈川県「毎月勤労統計調査地方調査」より浜銀総研作成



- 個人消費は方向感を欠いた展開に。まず、サービス消費は横ばい圏内で推移した模様である。10月の内閣府「景気ウォッチャー調査(南関東)」の景気判断理由集をみると、3か月前と比較した現状判断を「不変」とするレストラン、旅行代理店が多かった。
- また、財消費も浮揚感を欠く。10月の百貨店・スーパーの販売額は前月比-2.1%となった。食料品の値上がりが、財消費の重荷になっている。ただ、乗用車販売台数は、認証不正問題の影響が弱まり、2019年の平均を上回っている(神奈川県自動車販売店協会、全国軽自動車協会連合会資料を基に作成した当社季調値)。
- 10月の横浜市の消費者物価指数(総合、前年比)は前年比+2.5%と、前月並みの伸びに。政府による電気代・ガス代の補助金の効果で、エネルギー価格が下押しされた。一方、穀類などの価格上昇が響き、食料の伸び率がわずかに拡大した。

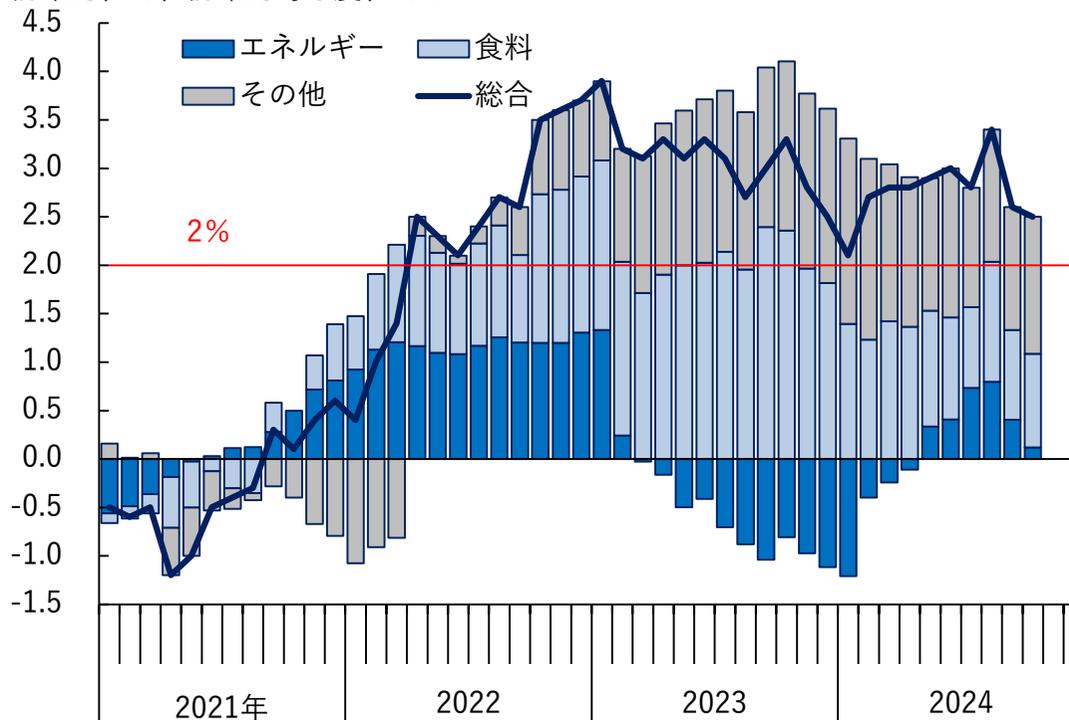
### 神奈川県 百貨店・スーパーの販売額 (店舗調整前)

10億円、季調済



### 横浜市消費者物価指数(総合)

前年比、%、前年比寄与度、%ポイント



注：季節調整は当社で施した。

出所：経済産業省「商業動態統計」より浜銀総研作成

注：その他は総合からエネルギー、食料を差し引いた残差。

出所：総務省「消費者物価指数」より浜銀総研作成



## 浜銀総合研究所



2024年12月4日  
調査部 副主任研究員  
白須光樹



調査部 研究員補  
井町淳哉